

1966. Floral morphology of Linaceae. Journ. Jap. Bot. 41: 1-10. — 1969. Contributions to the floral anatomy of Linaceae (1) Journ. Jap. Bot. 44: 289-294. — 1971. *ibid.* (2) Phytomorphology 21: 64-67. — 1973. *ibid.* (5) Journ. Jap. Bot. 48: 205-208. — 1974a, b. *ibid.* (3,4) Curr. Sci. 43: 226-227; 391-393. — 1976a, b. *ibid.* (6,7), 1977 *ibid.* (8) Journ. Jap. Bot. 51: 92-96; 349-352; 52: 56-59.

* * * *

アマ科の *Nezera cathartica* の花の諸器官の配列を、維管束の走行から研究した。花は 5 輪配列をなし、各輪は 5 数性である。がく片は 3 本の維管束が走り、花弁は離生して各 1 本の維管束をもち、下部は雄しべの筒と沿着している。雄しべは単体雄蕊をなし、1 本の維管束をもつ 5 本の雄しべと、維管束のない 5 個の仮雄蕊からなる。

□ 石戸 忠：新しい植物検索法 離弁花類篇 ニューサイエンス社、グリーンボックス 26, 151 頁 (1977), ¥ 900。本書は読むためのものでなく使うための本である。その主部は著者の工夫になる 38 頁にわたる検索図表で、他はこれを使うための解説といつてよい。この検索表は葉や茎や花のもつ簡単な形質の組合せによって誰でも容易に資料の属する科の名前を見出せるようになっている。図鑑や植物誌は既に多くの出版がなされ、選択に迷うほどであるが、そのいずれをとっても、植物の名前を調べるという目的から見て満足できるものとは云えない。その理由は従来用いられている検索表は、同定を目的とするより、分類系の表現ということを主目的としているからである。本書のような同定のみを目的とした本は、これまであまり無かったようであるが、この方式は今後研究されるべき点をたくさん持っている。今のところ科のレベルにとどまっているが、同様な手法は種の同定にも十分応用できるもので、近い将来計算機にセットしたプログラムによって、自動的な同定を可能にするものである。著者は、我が国に於て唯一人このような手法の開発にとり組んで来ておられるが、既に電算機による同定にも先鞭をつけており、その努力は高く評価したい。この方式は検索形質が多くなるほど記号化が進み、論理式が複雑になって利用者にとりつき難くなるおそれがあり、何かうまい解決策が欲しいものだ。10 頁の OR 記号に誤植があるが、これは使用法の解説であるだけに全体に影響があるので次の機会に正してもらいたい。また 34~35 頁の検索図表は、見出しがつけ違っているように思う。本書は草本を対象にしたものであるが、そのことは「まえがき」をよく読まないとわからない。表題に「草本篇」とでもしてある方が利用者に親切である。9 頁に記された、花の情報と葉の情報を混ぜてはならない、という注意は私には理由がわからない。異質な情報の組合せでも同定ができる方がよいと考える。いずれにせよ続刊を期待すると共に、一層洗練された検索法の開発をのぞむ。

(金井弘夫)